



お元気ですか

志村 たかよし です

# 中央区の比例で日本共産党は 前回比1196票(31%)増の大前進

政党名	得票数(票)
民主党	27,048
自由民主党	18,675
みんなの党	5,540
日本共産党	5,043
公明党	3,911
社会民主党	2,239
新党日本	1,204
国民新党	920
幸福実現党	394
※無効票	833

8月30日に投開票がおこなわれた衆議院選挙で、自民・公明政権はきびしい審判を受けました。

自民党は、300議席から119議席に大幅に後退、公明党も代表や幹事長が落選するなど31議席から21議席に後退しました。

民主党は、115議席を308議席とし、民主党中心の新しい政権が現実のものとなりました。

日本共産党は、比例で前回は2万4699票上回る494万3886票を得て9議席を守りました。裏面に常任幹部会の声明を掲載しました。

東京ブロックで、日本共産党は66万5462票を得て笠井亮候補

補の議席を守りましたが、あと4万417票で2議席目を獲得できるところでした。

中央区の比例票は5043票(表参照)で、前回(05年)より1196票(31・1%)増やす大善戦でした。

ここには「これまでの自公政治を終わらせたい」という強い思いや日本共産党の政策へのご支持とともに、民主党政権の下で「建設的野党」の役割を果たして欲しいという日本共産党への期待が寄せられたと思っています。

再選された笠井亮さんは、私(志村)とたびたび活動をともにし、「築地市場移転」問題では、国会でとりあげたり、移転反対デモの先頭に立つなど精力的にはたらいてきた方です。

日本共産党は国政、都政、区政での連携をさらに強化し、「住民こそ主人公」の立場でこれからもがんばります。

## 09年第3回定例会日程が決まりました

期間は、9月16日(水)~10月16日(金)

各会派の一般質問は17日(木)と18日(金)

日本共産党の質問は18日(金)午後2時~を予定しています

決算特別委員会の日程

10月1日(木)~14日(水)

本会議、委員会の傍聴にぜひおいで下さい。お問い合わせは志村までお気軽に

## 総選挙の結果について

2009年8月31日

日本共産党中央委員会常任幹部会



NHKテレビの  
質問に答える志  
位和夫委員長。  
＝8月30日

(1)

30日に投票がおこなわれた衆議院選挙で、国民の暮らしや平和を壊してきた自民・公明政権が、国民のきびしい批判を受け、歴史的な大敗を喫し、自公政権は退場することになりました。自民党は、119議席へと公示前の勢力を3分の1に激減させ、公明党も31議席から21議席へ大きく後退しました。

わが党は、どんな問題でも自公政権と真正面から対決をつらぬき、今度の選挙では、「自公政権を退場させよう」と訴えつづけてきました。有権者・国民がくだしたこの審判を、日本の政治にとっての大きな前向き的一步として歓迎するものです。

(2)

日本共産党は、比例代表選挙で9議席を獲得し、現有議席を確保することができました。また得票では、投票率

が上がるなかで、得票率は前回総選挙の7・25%から7・03%に後退したものの、得票数では491万9千票から494万4千票へと前進させることができました。

この選挙戦で沸き起こった風は、「自公政権ノー」の風であり、根本からいえば自民党政治が崩壊する過程で起こっている風です。それは、日本の政治を前に動かす流れです。同時に、この流れが、「二大政党」の「政権選択」という大キャンペーンのもとで、民主党への支持の大きな流れとなり、党の働きかけが弱いところでは、これまでの党の支持層にもそれは及び、日本共産党の前進をはばむ大きな「圧力」となったことも事実でした。

そうした激しく難しい条件のもとで、わが党が現有議席を確保し、得票数で前進したことは、善戦・健闘といえる結果です。私たちは、ご支持をお寄せくださった国民のみならず、猛暑のなかを大奮闘してくださった党支持者、後援会員、党員のみならず、心からの感謝を申し上げます。

(3)

私たちは、東京都議選の結果をふまえて、7月16日に幹部会声明「自公政権を退場に追い込む決定的な『審判』をくだし、新しい日本の進路の『選択』にふみだす選挙」を発表し、この方

針にもとづいて政治論戦を展開しました。

自公政権に強い批判と怒りをもつ国民と気持ちを共有しながら、ともに21世紀の日本の進路を探索するという姿勢で、この選挙戦をたたかいぬきました。とりわけ選挙後の新政権のもとで「建設的野党」として奮闘するという立場を鮮明にしたことは、国民の共感を広げました。こうした政治論戦は、広い国民の気持ちにそった攻勢的な訴えとして、善戦・健闘を支える大きな力になったと考えます。

(4)

総選挙の結果、「建設的野党」として日本共産党が果たすべき役割はいよいよ重要となっています。わが党は、選挙公約を実現するために、国民運動と共同してあらゆる力をそそぎます。民主党中心の政権にたいして、「良いことには協力、悪いことにはきっぱり反対、問題点はただす」という立場で、どんな問題でも国民の利益にたつて積極的に働きかけ、現実政治を前に動かすために奮闘します。

同時に、「財界中心」「軍事同盟中心」という旧来の政治の問題点を根本からただし、「国民が主人公」の新しい日本へと、日本の政治をさらに前にすすめるために力をつくします。今回の選挙で、国民は「自公政権ノー」の

きびしい審判をくだしましたが、それが民主党の政策・路線を積極的に選択した結果とはいえないことは、各種の世論調査などでも明らかです。終焉した自公政治に代わる、新しい日本の政治は何か。国民の模索と探索はつづくでしょう。私たちの日本改革の方針こそ、それにたいする最もたしかな回答だということを、新しい政治局面のもとで、広く明らかにする活動にとりくむものです。

(5)

選挙戦全体をふりかえって、強く大きな党づくりの必要性を、私たちは痛感しています。どんな複雑な政治情勢のもとでも、自力で前進を切り開く力をつけよう——この決意で、私たちは、この間、さまざまな努力を重ねてきました。国民の要求にもとづいたたかい、「綱領を語り、日本の前途を語り合う大運動」、党勢拡大運動などで、さまざまな新しい前進の萌芽をつくりだしてきました。しかし、この努力の到達点はまだ初歩的であり、前進の途上にあります。

新しい政治情勢のもとで、日本共産党の果たすべき国民的役割は、ますます大きくなるでしょう。私たちは、その役割を担うにふさわしい質量ともに強大な党をつくりあげるために、ひきつづき全力をあげて奮闘するものです。